

講義名	英語で学ぶグローバルコミュニケーション（総合）			授業形態	
担当教員	中川 典子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

今日の社会では、外国語を手段として使い、グローバルな視点で物事を考えることが益々、重要視されている。本コースはこのような現状に対応するため、異文化を理解し、文化的多様性に対して寛容な態度を持ち、世界に通用する基本的な英語力をもったグローバル人材を育成することを目的とする。授業ではテキストによる演習と異文化コミュニケーショントレーニングで使われる手法を用いたエクササイズを実践することにより、異文化間コミュニケーション能力の育成を目指す。

到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。

- (1) 課題解決型のスキットを通じて、英語力だけでなく、グローバル人材に求められるコミュニケーションスキルや課題解決力を身につけることができる。
- (2) 英語母語話者だけでなく、ノンネイティブ（英語母語話者以外）の人々の生の英語に触れることで、実際のグローバルな英語環境を履くことができる。
- (3) 日常の様々な場面における実践的な英語力を習得できる。
- (4) 基本文法やイディオムを習得できる。
- (5) 日本と諸外国との価値の違いについて理解を深めることができる。

提出課題

基本文法やイディオムに関する演習問題、テキストの内容に沿った会話文の作成、その他、授業で配布するテキストの内容に準拠して担当者が作成したワークシートに取り組み等、さまざまな課題に取り組み。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

小テストを実施し、理解が難しいと思われる疑問について授業中に解説する。受講生が提出したワークシートの英語表現を添削指導し助言する。

評価の基準

- (1) 小テスト (30%)
- (2) 課題 (40%)
- (3) 定期試験 (30%)

履修にあたっての注意・助言他

- (1) コースの評価は、上記の成績評価基準のすべての項目を総合して行うが、一つでも不参加の項目がある場合は不合格となる。
- (2) 講師が入室したときに教室にいない学生は連絡者と見なす。特別な理由がない限り連絡厳禁。
- (3) 規定の時間以上の遅刻は欠席となり、また、規定以上の回数欠席すると単位が取得できない。
- (4) 教科書は必ず購入すること。当然、購入しているという前提で授業を実施します。教科書がないことにより生じる不都合は自己責任となる。また、教科書を購入しない人は単位を取得できない。
- (5) 提出課題を含むすべての連絡はRyuka Portalの「講義連絡」を通じて行うので、必ず毎週確認すること。

教科書

.Must-Have English Skills for Global Communication.	Shinichi Shibata,Rie Jindo, Lindsay Wells	Kinseido	1,900	978-4-7647-4059-4
---	---	----------	-------	-------------------

参考図書

その他

各ユニットの内容に沿ったワークシートやその他の教材を必要に応じてRyuka Portalの「講義連絡」に提示する。

授業計画

授業回数 授業内容

1. コースガイダンス、Unit 1 May I help you? (困っている人に話しかける)
2. Unit 2 What do you do on the weekends? (初対面の人と会話を続ける)
3. Unit 3 That sounds interesting! (ポジティブ・ネガティブな意見を述べる)
4. Unit 4 I'm not feeling well. (体調を伝える)
5. Unit 5 You shouldn't step there. (注意する)
6. Unit 6 Why don't we buy potatoes, too? (提案する)
7. Unit 7 Would 5 pm be convenient for you? (スケジュールを調整する)
8. Unit 8 I'll have to pass. (依頼を断る)
9. Unit 9 I have an idea. (解決策を提案する/協働作業する)
10. Unit 10 Could you do me a favor? (お願いする)
11. Unit 11 I think you could explain this more. (アドバイスを求める)
12. Unit 12 I don't get what you mean. (意思を聞き返す)
13. Unit 13 I'm so sorry to hear that. (相手を励ます)
14. Unit 14 That's not what I meant. (誤解を解く/真意を伝える)
15. Unit 15 Let's keep in touch! (別れの挨拶/感謝を伝える)

*授業の進捗状況により、登週に内容が持ち越される場合がある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：翌週の授業のための準備をし、課題を提出する。英文法やイディオムの課題やテキストのワークシートに取り組み、リーディングセクションの単語検索など（2時間）
 復習：その日に学習した内容の復習（テキスト内容のリスニング、会話文やリーディングセクションの音読を含む）、その週の課題に取り組み。（2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本コースでは英語学習を通じて、円滑な異文化間コミュニケーションに必要な知識とスキルを修得する。これは「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」を育成するという本学の全学共通目標のデプロイがポリシーに沿ったものである。また、国際経験を通して海外の社会や文化について学び、基本的な語学と内容理解・情報収集に参画することにより、卒業時に身につけておくべき資質・能力の育成につながる。これらの能力は工学部生に求められる業界界の動向や問題点を理解するための基礎知識・経済学部生に求められる経済にまつわる情報分析の力・人間社会学部生に求められるコミュニケーション能力の修得に役立つ。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

Google formを使って質問やコメントを毎回提出することを必須とする。すべての内容を翌週の授業で紹介し、質問に回答する。

実務経験の有無及び活用

備考

前掲のように、教科書を購入せずに受講した場合、単位は取得できません。第1回目の授業で履修に関する重要事項を伝えるので、必ず出席すること。